

マルヤス岡崎蹴球新聞

発行人
スタジアム芸人
イケザえもん
@ikezaemon01



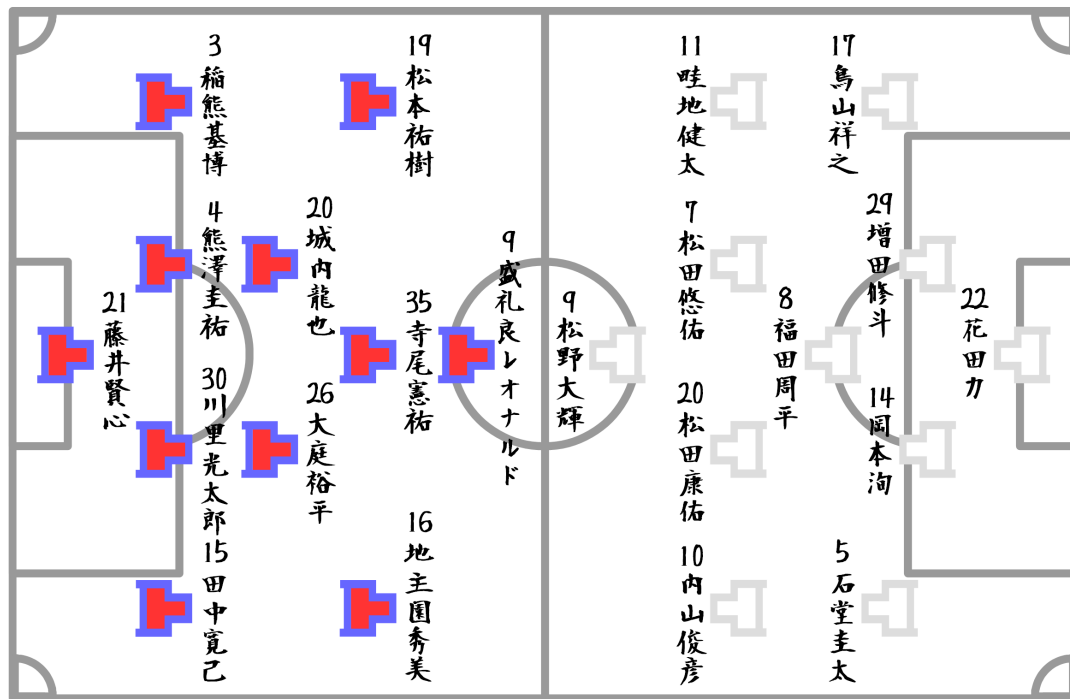
実りの秋の葡萄ダービー

第19回JFL セカンドステージ第12節
FCマルヤス岡崎 対 栃木ウーヴァFC



栃木ウーヴァFC

【本拠地】下野国 栃木市【監督】堺 陽二
【2nd-S】勝ち点9 14位【年間】勝ち点19 15位



蹴球合戦 予想布陣図(FCマルヤス岡崎蔵)

[会場]名古屋市港サッカー場 [ボールパーソン]東海学園高校

【試合運営へのご協力を賜り誠にありがとうございます】



FCマルヤス岡崎

【本拠地】三河国 岡崎市【監督】北村 隆二
【2nd-S】勝ち点11 13位【年間】勝ち点24 13位

爲山九初功虧一簣
ー今節の展望ー

願離穢土
欣求浄土

九初功を一簣に虧く(きゅうじんのこうをいつきにかく)とは、「高い山を築くのに、最後の土を欠けば完成しない」ということ表した故事成語だ。転じて、「長い間の苦労が、最後に失敗すること」を意味する。シーズン序盤は結果が出ず、苦勞を重ねたマルヤス。その苦しみがようやく報われたか、北村監督の指揮下では3勝1分2敗と白星先行。今シーズンも残り4試合。最後の土を欠かさぬよう、気を引き締めて臨む。一方の栃木ウーヴァも調子を上げてきた。9月以降はわずか1敗。夏場までとは出来が違う。降格圏からの脱出を目指し、歯を食いしばって最終盤を戦う。昇格初年度のマルヤスは最下位に沈んだ。しかし、その後の2年はいずれも自力で残留。今年も「JFLビリのチームが順位を上げて毎年残留した話」を継続しなければならぬ。最後まで全力で、さばりマンにならず、詰めが甘くならぬよう、更に上を目指せ。

栃木ウーヴァFC
チーム紹介

マムシの
ウーヴァ

毎年二桁順位に甘んじているが、入替戦でPK戦を制するなど、驚異的な粘りでJFL残留を勝ち取ってきた。その姿は、噛み付けば離さないマムシを思わせる。「栃木市ふるさと大使」として街をアピールするためにも、全国リーグへの残留は必須である。栃木のマムシは、この季節から怖さを増す。

栃木市の石川

恋

栃木ウーヴァFCと同じく、「栃木市ふるさと大使」を務める石川恋(いしかわ・れん)さん。「ビリギヤル」のカバーモデルとして脚光を浴び、「第3回カバールガール大賞」でグラビア部門を受賞。モデルに女優にと活躍の幅を広げている。

そんな彼女がおすすめするのは、栃木市菌部町にある「そのべ」だ。手打ちそばと創作和食が人気で、中でも「海老おろし蕎麦」が好きなんだとか。また、栃木市のゆるキャラ「とち介」と仲睦まじいツーショットも披露している。

筆者イケザえもんは、石川恋さんのDVDと写真集を発売日に購入したほど。今すぐにでも、とち介もしくは海老になりたい。

岡崎市の石川

祐希

岡崎出身のバレーボールプレーヤー石川祐希選手。矢作中学校から、愛知県の強豪校である星城高校へ進学。在学中、チームは二年連続の高校三冠という偉業を成し遂げた。

その後は中央大学へ進み、全日本代表に選出。活躍の場は国内のみに留まらず、イタリアのトップリーグであるセリエAでもプレー。日本男子バレー界のエースと言っても差し支えない。その実力以外に、ビジネス面でも高い人気を誇っている。日本男子バレーを背負って立つ存在になるであろう石川選手。筆者イケザえもんと同じ三河出身であり、筆者イケザえもんと同じイケメンでもある。石川選手の今後注目だ。

※個人の主観に基づくもので、感じ方には個人差があります。

本日のイベント

十五時
試合開始

【三河乱舞 よさこい披露】
刻 十四時四〇分
於 ピッチサイド

【ファイブアルファ
「Spica」
チャダンス】
刻 ハーフタイム
於 ピッチサイド

【ケータリングカー出店】
於 スロープ付近
☆黄色いボディが目印！

【選手とあそぼう企画
「マクラ大戦3
く港は燃えているか」】
刻 十四時〜十四時五〇分
於 コンコース内

【FCマルヤス岡崎
オリジナル缶バッジ
ガチャガチャ】
於 コンコース内
グッズショップ

【選手紹介パネル】
於 入場口付近
☆今月のテーマは
「出身地のお国自慢」

【監督・マンオブザマッチ
インタビュー】
刻 試合終了後
於 ピッチサイド
☆マルヤス勝利の場合のみ

【選手・スタッフによる
お見送り】
刻 試合終了 五分後から
十分間
於 入場口付近

次回ホームゲーム 11月5日 日曜日

対 MIOびわこ滋賀

於 13時 試合開始
名古屋港サッカー場

公式サイト



公式ブログ



facebook



?

